

妙典の駅で下りると

神社と寺がおびただしく並ぶ道

あなたは隣にいる

過去から未来へじゅず玉のように

寺町通りは焼けるように暑い

今日が連なる

日がさをさしても目まいがするほどだ

息苦しくなつて

常夜灯のみえる旧江戸川へ逃げた

権現道を左折して

たくさん寺の門を通り過ぎた

本流とはちがつて細い川だが

まだ

水は目の中から流れ入ってくる

あなたは隣りにいる

全身を冷たくするほどため息が出る

本行徳から行徳街道へ出て

水面をみつめている

ギャラリーになっている田中邸

あなたもみつめている

浅子神輿店跡はふれあい伝承館になった

私ではないのにすべては私に重なり

向かいには笹屋うどん店跡

のがれられぬ定めごとのようだ

暗いはるかな道を歩き続ける

どこまで歩いてても

さらにこの道をゆくのだ

あなたは隣りにいる

あなたも隣りにいる

あのころこの街で暮っていた自分の

まぼろしみたいにごわい